

50音カードことば遊び

1 プログラムの概要

- ① 内 容 50音のカードを使い、言葉を作る遊び
- ② 場 所 室内
- ③ 時 間 20分前後
- ④ 準備物 50音カード、50音イラスト（別紙）

2 ねらい

- ・ 親子のコミュニケーションづくり。
- ・ 考えたことを文字にして伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心を促す。

3 基本的なルール

- ・ 50音カード 48枚（「45文字」「^ゝ」「[゜]」「^ー」）をテーブルや床に自由に並べ、言葉になるようカードを取る（「あり」なら「あ」と「り」、「いす」なら「い」と「す」）。
- ・ 48枚のカードは、いずれも1回しか使えない。
- ・ 親子で交互に言葉を作ったりする。
- ・ 残ったカードで言葉ができなくなるまで続ける。
- ・ ①親子でカードの枚数を競う、②協力してカードを残さないようにする、という2通りの遊び方がある。

4 プログラムの進め方

プログラム内容	保護者の関わりのポイント																												
<p>(導入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かるた取りのような50音の言葉カード取りをすることの説明。 ・ 用品の確認。 <p>50音カード 48枚（「45文字」「^ゝ」「[゜]」「^ー」） 50音イラスト（A4サイズ）1組 <small>※いずれも広島県教育委員会ホームページからダウンロードできます。</small></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>50音カード（抜粋） ※1文字ずつ切り離して使います。</p> <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">い</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">う</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">え</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">か</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">き</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">く</td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>50音イラスト（抜粋）</p> <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">い</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">う</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">え</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> </table> </div>	あ	い	う	え	お	か	き	く	あ				い				う				え				お				<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に遊び方が伝わっているか確認しましょう。 ・ 一緒に楽しもうという働きかけが大切です。 ・ 一緒に課題を達成していくことを伝えると子供が安心して取り組めるでしょう。
あ	い	う	え																										
お	か	き	く																										
あ																													
い																													
う																													
え																													
お																													

■ ルール理解

① すべてのカードの表を上にして並べる。

※ 50音カードの下にラインが入っている方が文字の下になることを親子で一緒に確認しましょう。



② ジャンケン等でスタートを決め、時計周りに順番に回る。

③ スタートの人が「50音イラスト」を見て、「あ」の最左段（赤枠）のイラスト「あめ」の文字「あ」と「め」のカードを探して取る。

50音イラスト（抜粋）



※ 1回目は子供と一緒にイラストの言葉を確認→カードを探す→取る をやってみるとよいでしょう。

④ 次の人が「い」の最左段（赤枠）のイラスト「いす」の「い」と「す」のカードを探して取る。

※ 2回目以降は子供に質問する形をとってルールの理解を促進するとよいでしょう。

⑤ ルールを理解するまで「あ行」「か行」の最左段（赤枠）のイラストの文字を順番に取る。

・ 文字と「ㇿ」「ㇾ」「ㇽ」は1回しか使えない。

※ 具体的にカードを使って、「バナナ」「バパイヤ」はつくと確認をすると分かりやすいでしょう。

・ 「や」「ゆ」「よ」は拗音、^{ようおん}「つ」は促音^{そくおん}としても使用できる。

※ カードを使って「ちょう」「がっこう」の例で確認すると分かりやすいでしょう。

- ・ なるべく子供がカードを並べるように任せて待ちましょう。
- ・ 上手に並べられない時は子供がやる気を失くさないようフォローしましょう。

- ・ 自主的な言動（カードを並べる・イラストに興味をもつ・言葉を作ろうとするなど）がみられた時は笑顔でほめましょう。

■ 遊び方1

① 全てのカードを、表を上にして並べる。

② ジャンケン等でスタートを決め、時計周りに順番に回る。

③ スタートの人が、カードを見て、言葉を作り、カードを取る。



④ 次の人が残ったカードの中から言葉を作り、カードを取っていく。

⑤ 言葉が作れなくなるまで続ける。

※ なるべく2音以上にするが、やむを得ない場合は1音で言葉になるものもOKとする。【例：て（手）、は（歯）など】

⑥ 何回かチャレンジして残ったカードが0枚になることを目標にする。

※ どうしても思いつかない場合は「50音イラスト」を参考にしてください（遊び方2、3も同様）。

- ・ 子供が思いつきそうな言葉を残しておいたり、思いつかない時は、日常生活の中で子供が思いつきそうな言葉が出るように、ヒントを出すと考えやすいでしょう。

- ・ 言葉は思いついたものの、文字カードを見つけれない時は、ここにあるとすぐ教えるのではなく、範囲を教えるなどヒントを出するとよいでしょう。

<p>■ 遊び方2</p> <p>① 全てのカードを、表を上にして並べる。 ② ジャンケン等でスタートを決め、スタートの人が、1枚カードを取り、その文字を全員を中心におく。 ③ 全員で、その文字が頭につく言葉を考え、1番長い言葉を思いついた人が、その言葉の他の文字を取り、頭の文字の横に並べ、カードを取る。 ④ 時計回りで次の人が1枚カードを取り、③と同様に行う。 ⑤ 言葉ができなくなるまで続ける。 ※ 文字数の多い言葉にチャレンジする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 取れたカードの枚数を一緒に数えましょう。 • 親も楽しんで言葉を見つけましょう。 • 子供から言葉の意味を問われたらその都度教えてあげましょう。 <p>【ほめポイント】 ～その都度ほめてあげましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 言葉を早く思いついた • 文字数の多い言葉を思いついた • 面白い言葉、意外な言葉を思いついた • 思いついた言葉のカードを見つけれられた • あきらめずに見つけようとした • 集中して取り組めた など
<p>■ 遊び方3</p> <p>① 全てのカードを山にして裏返して置く。 ② ジャンケン等でスタートを決め、時計回りで1枚ずつめくっていく。 ③ 並んだカードで、言葉が見つければ、声に出して見つけた言葉と言う。 ④ 見つけた言葉のカードは言った人がもらい、少し離して並べておく。 ※ 同時の時はジャンケンする。 ⑤ 言葉ができなくなるまで続ける。</p>	<p>【ほめポイント】 ～その都度ほめてあげましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 言葉を早く思いついた • 文字数の多い言葉を思いついた • 面白い言葉、意外な言葉を思いついた • 思いついた言葉のカードを見つけれられた • あきらめずに見つけようとした • 集中して取り組めた など
<p>(ふりかえり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子供の見つけた言葉、親のみつけた言葉を再度確認しましょう • 何回か繰り返す時は、前回よりできるようになったところを見つけて、ほめてあげましょう

5 その他

全体を通して、次のことを意識してみましょう。

- 危ない時以外は、子供の行動を制止せず、見守りましょう。
- 子供の発見や感動を、同じように感じましょう。
- 言葉や文字を題材にするので学習的になりがちですが、楽しくできる雰囲気づくりや働きかけを意識しましょう。
- 子供にだけ考えさせるなど任せきりにしない、「こうでしょ」などと指示したり介入したりしすぎないようにしましょう。
- 出来ないことを見つけるより、出来ていること、出来るようになったことを見つけましょう。
- ほめる時はしっかりとほめてあげましょう。
- 子供への声かけの例。
 - 良い例：すごいね、よくできたね、よく思いついたね、最後までがんばったね、ここまでやれたね、わからないといえたね、一緒にやると楽しいね
 - 望ましくない例：なんで(まだ)わからないの、ちがうよ、そんなのはだめだよ、遅いよ(早くして)、もっと頑張って、他の子の方がよくできてるよ